



2016年11月26日／全3枚（本状含む）
発信元：日本女子大学広報課

報道関係各位

日頃は本学の広報活動に対し、ご支援・ご協力いただきまして、心よりお礼申し上げます。
以下、お知らせいたします。

第12回「平塚らいてう賞」贈賞式を開催

日本女子大学では本日午後、第12回「平塚らいてう賞」贈賞式を本学新泉山館大会議室（目白キャンパス）で開催し、日本女子大学 佐藤和人学長より、顕彰を受賞した日本女性外科医会と、特別を受賞した NPO 法人 平塚らいてうの会に対して賞状と副賞賞金を贈呈いたしました。

「平塚らいてう賞」は、「平塚らいてうの記録映画を上映する会」のご芳志をもとに、人生を女性解放や世界平和のための活動に捧げた平塚らいてう氏（1906年日本女子大学校卒業）の遺志を継承し、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に対して、顕彰と奨励をはかることを目的に創設されました。募集にあたっては、本趣旨を社会に広く伝えることや今後の活動が進展することを願い、全国で研究や活動を行っている個人または団体を対象としています。

今年は平塚らいてう生誕130年にあたります。12回目の今回は、顕彰5件・奨励3件の応募がありました。顕彰はこれまで際立った功績をあげた方へ授与し、奨励は研究や活動を継続的に行っている方、あるいは新たに取り組もうとしている方に授与します。今回は厳正な審査の結果顕彰受賞者1団体を決定しました。また本年は、平塚らいてう研究とその活動の普及に努めた功績に対して「特別」を設けました。

本賞は平塚らいてうの精神を受け継ぎ、平和で平等な21世紀の社会を作るために行うものであり、今後もこれからの社会を担う多くの若い研究者や活動家の本賞への応募を期待しております。

お問い合わせ先

日本女子大学 総務部 広報課

「平塚らいてう賞」事務局

Tel. 03-5981-3176

FAX. 03-5981-3164



日本女子大学学長 佐藤 和人 あいさつ

平塚らいてう(日本女子大学校家政学部3回生)の卒後100年を記念して「平塚らいてう賞」が創設され、本年は第12回目の贈賞式を迎えました。本賞は平塚らいてうの遺志を尊重し、「男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動」の顕彰と奨励をはかることを目的としています。

平塚らいてうは青鞥を創刊、婦人参政権運動に力を尽くし、さらには平和運動のシンボルとして多大な足跡を残しています。その行動はまさに創立者成瀬仁蔵の「魂の子」と称され、日本女子大学との強い結びつきがあります。

今年は平塚らいてう生誕130年にあたります。「顕彰」には“日本女性外科医会(代表世話人 富澤康子氏)”が選ばれました。日本医学会分科会における男女共同参画を目指した日本女性外科医会の活動が評価されました。医学分野からは初めての受賞ですが、その活動はまさに平塚らいてう賞の顕彰にふさわしいと考えます。また、「特別」に選ばれた“NPO 法人平塚らいてうの会”は“らいてうの家”の運営や“平塚らいてうの会紀要(2008年創刊)”などの活動、さらに新たならいてう像について資料整理や研究活動をおこなっておられます。いずれも「平塚らいてう賞」にふさわしい研究・活動であると高い評価を受けました。今後のさらなる発展を期待したいと思います。

～第12回「平塚らいてう賞」贈賞式リーフレットから～

第12回「平塚らいてう賞」選考委員発表コメント

第12回受賞者の選考にあたり私どもは、候補者の業績を広く、世界の女性のさらなる解放、問題の解決、平和問題や地域社会への公正な目配りと着実な行動の継続という観点から論議し、以下の業績に対して「顕彰」および「特別」に値するとの結論に達しました。

ご業績の特色や褒賞に値する観点は以下の通りです。

<顕彰>

受賞者: 日本女性外科医会

研究テーマ: 「日本医学会分科会における男女共同参画を目指した JAWS の活動」

受賞理由 :

最近の日本では医師国家試験の合格者の約3割が女性であり、外科医志望の女性も増えつつある。しかしその前途は厳しく、医師であり続けようとするれば、環境改善、育児支援、勤務形態の柔軟化、産後の復職支援等々が必要になる。そのような立場にある女性外科医のワーク・ライフ・バランスをサポートし、継続就労を推進するために、2009(平成21)年「日本女性外科医会」(略称JAWS)を立ち上げた。

以上は代表世話人富澤康子氏が書いたものの要約であるが、このような信念ともいえる考え方が核心にあるからこそ、日本女性外科医会が困難を乗り越えて改革を進めた実績があると思われる。その着眼と工夫とは新鮮で人間社会の現実と根差しているものであると同時に、非常な活力と説得力を持つ。平塚らいてうが希求した男女共同参画を目指す活動は、顕彰にふさわしい。

<特別>

受賞者: NPO法人平塚らいてうの会

研究テーマ：『平塚らいてうの会紀要』(2008～)によるらいてう研究成果の発表

受賞理由：

2001年に発足した「NPO法人平塚らいてうの会」は、『ニュース』の発行や「らいてう講座」の実施、『青鞥』原本の蒐集、『平塚らいてうの会紀要』の刊行などを通して、らいてう研究の促進及びらいてうの思想の普及に多大な尽力をされた。『紀要』に掲載された未発表資料は貴重であり、とりわけ従来不明であった戦時中の思想的模索及び戦後の平和思想の解明は、研究を大きく進展させた。

また、2006年には信州の上田に「らいてうの家」を開設し、本年で10周年を迎える。この記念施設の運営を通して、らいてうの存在を改めて世に知らしめ、らいてうのめざした平和社会を現代に実現させるべく活動してきた功績はきわめて大きい。

このような際立った功業に対し、「特別」を贈呈することとした。

第12回「平塚らいてう賞」<顕彰> 受賞スピーチ(要旨)

日本女性外科医会

Global gender gap report 2016では144カ国中で111位と日本は順位を下げました。官民の高位職における女性比率は113位、専門的・技術的労働者の女性比率は101位でした。日本医学会分科会の男女共同参画は遅れていて、女性の執行役員はわずかです。意思決定に女性の目線が必要と思われる委員会の女性比率は現在も低いです。

日本女性外科医会(JAWS)は2009年に設立された日本外科学会の外部団体です。日本外科学会の代議員選挙は自由に立候補できません。また代議員選挙はあっても大部分は投票行動無く決まり、現在、男性代議員357名、女性代議員2名です。女性代議員は選挙で選出されましたが、定数のため投票行動はなく、理事は過去10年以上連続で拍手決議です。もちろん100年以上にわたって女性理事はいません。医学会で男女共同参画を尊重した選挙制度を採用していただくことは難しいです。医学会での男女共同参画に貢献するために、JAWSは今後もエビデンスを集め発信いたします。

第12回「平塚らいてう賞」<特別> 受賞スピーチ(要旨)

NPO 法人平塚らいてうの会

NPO 法人平塚らいてうの会は2001年発足以来、らいてうの家(上田市)の運営と併せて、『青鞥』原本(全52冊中50冊)の入手をはじめ、らいてうの生原稿や日記、書簡等未公開資料の整理研究につとめています。その成果の一端をらいてうの家で展示するほか、2008年創刊の『平塚らいてうの会紀要』に発表してきました(年1回刊、現在9号)。

主な研究論文としては「らいてうと消費組合」「新婦人協会とらいてうの構想」「らいてうと15年戦争」「戦時下のらいてう」「らいてうの“疎開”時代」「らいてうの俳句」「らいてうの平和思想」等があり、資料紹介としては『青鞥社事務日誌』『らいてうインタビューテープ(「新婦人協会の回顧」・『青鞥』創刊50周年)』などがあります。

特にらいてうの戦時下の思想的模索や第一次世界大戦後の国際的な平和運動と戦後平和思想との関連などは、これまでほとんど解明されてこなかったテーマであり、生誕130年を迎えて「新しいらいてう像」の再発見にいささか寄与することができたのではないかと自負しております。

以上